西東京市市民協働推進センター

平成 26 年度第 11 回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成 27 年 3 月 17 日(火)午後 7 時～9 時
■開催場所：イングビル 3 階第 1、2 会議室
■出席委員：池田委員、久保委員、熊田委員、小嶋委員、紺野委員、坂口委員、田中(友)委員、田中(紀)委員、谷委員、富沢委員、豊永委員、中村委員、藤江委員<以上 13 名、五十音順>
■事務局　：内田センター長、熊原、栗山事務局長、丸木地域福祉課長、塚澤主事

1. 報　告　事　項

1. 業務報告について

事務局より、2 月期の主催事業、その他事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：避難所運営ゲームについて地域組織の中で 2 巡目になっているグループもあるかと思うが、今後の状況を教えて頂きたい。

事務局：まだ実施をしていないところは多く、3 月もスケジュールが入っている。西東京ボランティア・市民活動センターが支援し、防災ボランティアのグループができたので、連携しながら進めていきたい。

委員長：先日、４万人が参加する第 3 回国連防災世界会議が仙台市で開催された。700 くらいの数のパブリックフォーラムがあり、フォーラムのいくつかで日頃のコミュニティが大切ということが話題に上がった。避難所運営ゲームなどを日常的に実施し、メンバー相互の情報を共有することが大事であると紹介した。

委　員：平成 26 年度市職員研修で法政大学名和田教授による「協働の制度装置と事例研究」と題した講演があったが、職員はどんな反応だったか。

事務局：講演のみでワークショップなどはなく、職員の反応はわからない。

委　員：コミュニティビジネスに関するセミナーに事務局スタッフが参加したとのことだが、コミュニティビジネスとはどういうことか、ビジネスで利益を上げることと何が違うのか。また、ボランタリーフォーラムで他市職員は熱心とあるが、どういうことか。

事務局：ビジネスと言ってもまちづくりを目的として利益、収益を出すことを目的としていない。

事務局：週末の 3 日間のフォーラムであったにもかかわらず、他市職員が参加して熱心に議論に加わっている姿が見られた。

委員長：NPO も利益をあげる仕事をすることもあるが、あくまでもビジネスの手法を用いて仕事をすることであり、利益を分配することではない。ボランタリーフォーラムは参加費 1,000 円でいろいろなセッションに参加できる。非常にためになるので、次の機会には運営委員にも案内してほしい。

委　員：まちづくり円卓会議を契機に始まった畑作業が順調にいっていないと聞いたが、どうなのか。

事務局：畑の件については、畑の貸主農家が相続問題で畑を手放すことになったため、利用が出来なくなったが、ノーマライゼーション西東京の会の活動自体は進んでいる。

委員長：まちづくり円卓会議を参観した運営委員から感想をいただきたい。

委　員：子育てに関連して多方面で活動している方から話を聞くことが出来た。冒頭にあった講演の内

容は分かりやすく、良い会議だった。

委員長：まちづくり円卓会議では参観者からも意見が出て面白かった。

委　員：私は約 10 人で行う円卓会議のメンバーに指名され、円卓会議に臨んだがマイクを回して順番に全員が話す方法は、話す時間が制約され消化不良だった。フリーディスカッションにして自由に意見を交わした方が、意見も言い易く、盛り上がったのではないかと思う。ファシリテーターの力量が高いと感じた。

委員長：メディア関係の仕事をしているまちづくり円卓会議のメンバーでもある運営委員から、今回、円卓会議の情報発信について問題提起があった。会議メンバーが会議模様を独自に世の中に伝えることに対して、皆さんの意見を聞きたい。

委　員：私は地域情報紙を発行しており、その紙上で先の円卓会議の様子を伝えた。同紙のウェブサイトでは、各メンバーの所属・名前と発信内容を明記し、より詳しく会議の中身について紹介している。それに対し、事務局より発信者が特定される記事は好ましくないとの指摘があり、ウェブサイトの記事改変を求められた。円卓会議メンバーからクレームがあったと聞いている。私は運営委員であり、円卓会議のメンバーでもあることから、今回はウェブサイトの記事改変の要求に応じた。現在、発信者が特定されない記事が公開されているが、これは本来のメディアのあり方からすると正しい対処ではないと考える。この件について、発言者の個人名を公表するべきだと戦うつもりはないが、なぜ発言者が特定されることが問題になるのかが理解できない。今後の情報発信にもかかわることであるので、この機会にこの場で確認するべきであると考える。私は以下の認識から、発言者の特定される情報公開を行った。円卓会議は公開で行われており、その参観者は公募による参加であった。さらに、ゆめこらぼが行う事業は公的なものであり、公的な事業が公開で行われ、そこで話し合われたことを公開してはいけない理由はないと考えた。しかし、円卓会議メンバーからのクレームを重視した事務局は記事の変更を求めてきた。これは、情報公開に疑問を呈する一人の声を重んじることで、市民の知る権利を阻害するということになる。つまりは、事務局の姿勢の問題だと考える。私はできる限り、情報は開示するべきだと考えるが、運営委員のみなさんのご意見を伺いたい。

事務局：円卓会議メンバーから個人が特定されていると連絡を受けたとスタッフから連絡があり、発言者を特定しない記事改変を求めるよう指示した。メディアに発言者特定で内容掲載する事に対し、事前に発言者から了解を得る事が必要と考えた。

事務局：今回のテーマで円卓会議を始めるに当たって、参観者に対して会議メンバーの責任や言質をとることはしないで欲しいとお願いした。各自が立場を超えて自由に話し合うことで解決策を見出すのが円卓会議だからだ。

委　員：前年度の「障害がある人もない人も分けない居場所づくり」をテーマにした円卓会議メンバーだった経験から、発言者が特定できると会議がやりづらくなると思う。

委　員：円卓会議で話していることと、文章になることとは異なる。誰が何を発言したのかが文章で残るということには戸惑いがある。

委　員：事前に事務局が言質をとらないと言ったのなら、メンバーの一人ひとりに記事について了解をとった上で記事にするべきではないか。

委員長：運営委員会の会議録は運営委員会でチェックし、皆からの確認がとれる。メディアによるものは参加者全員に確認をとることは難しい。特にネットは検索されて不特定多数の人に伝わる可能性がある。紙媒体とネットの違いも考える必要がある。

委　員：公開で開催する以上、傍聴者がブログにあげたらどうするかということも考えなくてはいけない。公開の会議は開催し、別に課題解決を目指すための非公開の会議を設けるなど使い分けてもよいのではないか。

委員長：当事者が判断しながらプロセスを理解してメディアへの上げ方を考えた方が良い。この件について事務局と委員で別途、話し合った方が良い。必要であれば私が入って話し合いたい。問題提起した運営委員にお願いしたいが、この件についてはメディアの仕事をしている立場だけでなく、円卓会議メンバーとしての立場でも考えたほうがよい。

2. 3月以降の事業について

事務局より、3 月の実施事業である第三者評価委員会、地域連携促進事業まちづくり円卓会議及び新年度事業説明会について説明があった。

3. 来年度の運営委員会委員について

事務局より、平成 27 年度運営委員会委員として候補となっていた、社会福祉法人の伊藤氏、国際協力認定 NPO 法人所属の小松氏、NPO 法人理事の佐藤氏、NPO 法人所属の佐藤氏、地元企業所属の鈴木氏の 5 名から了解を得たとの報告と所属団体等の紹介があった。

4. 来年度の事業計画について

事務局より、平成 27 年度実施事業について説明があった。

委員長：次年度からは運営委員が積極的に企画も含め参加するように検討していきたい。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：今週末までに意見がなければ、確定稿とする。

2. 今後の運営委員会のあり方について

事務局より今後の運営委員会のあり方について審議事項毎の概略説明があった。その後、運営委員 2～3 名でグループを作り、10 分間議論した結果をもとに、以下議論した。

(1)審議事項 1：開催日程

委員長：開催日程「毎月第 3 火曜日 19 時から 21 時」について意見はあるか。

委　員：19 時よりもう少し早く始められるとよい。

委員長：次回新しい委員も含め決めることとする。

(2)審議事項 2：会議の運営方法

委員長：グループ討論の導入について意見はあるか。

委　員：傍聴者がグループ討論だと置いていかれた気持ちになる可能性があるため、グループに分かれず、全員でフリーディスカッションをしてはどうか。

委員長：行政職員の参加について意見はあるか。
委　員：社会福祉協議会や協働コミュニティ課を含め、言質をとらないでもっと気軽に参加してくれることが望ましい。事務局中心で動きやすい形をとったほうが良い。
委　員：協働コミュニティ課だけでなく、幅広く行政の方にも参加してほしい。すでに協働している運営委員をとおして参加を呼び掛けていただくのはどうか。
事務局：「行政職員と市民活動団体の懇談会」との区分を整理する必要性があると考える。
委　員：運営委員会に行政職員が参加する場合、要請文書が必要ではないか。公的立場で参加することになると思う。
委　員：行政職員に気軽に参加してもらうか、公的立場で参加してもらうかについては、事務局の力量でうまく集めることが必要と考える。
委　員：環境関係の市民活動を行っている団体だが、既に文書で参加要請をし、行政職員に参加していただいている。
委　員：行政職員との懇談会は機能してないと思う。もっと気軽な立場で参加してもらうほうが良い。
委員長：飲み会でもよい。気軽に参加できるようにしたい。
委　員：行政職員が運営委員会に参加することは意味を持つと考える。
委員長：行政職員と対話する機会を捉え、また、協働コミュニティ課を通じて誘うことも良いと思う。

(3)審議事項 3：事業計画への参画
委員長：運営委員がゆめこらぼの事業に対して自発的に企画提案をすることができるようにするべきかどうかについて意見はあるか。
委　員：事務局案だけではなく、任意で強制ではないこと。提案は 6 月くらいに行う。
委　員：自分たちの指示で行動したものについて責任を持つ。一部は今までのままでよいと考える。
委　員：運営委員は戦略、実施、計画通りに行っているかを確認したり、リスクの確認をしたり、投資効果や責任の範囲をはっきりさせることができるはず。実行部隊に入ることは難しい。中間支援組織は何をやるべきなのか、正しい方向に向いているのかなどの調整役をやることが運営委員会の役目ではないか。
委　員：企画提案し、効果を評価することが、月１回の委員会でどこまでできるか。
委　員：月１回で目標を立ててやる。2 ヶ月に１回くらいの企画提案を行う。
委　員：決定権を持つことより、提案や討議し案を作り、事務局で処理してもらい、最後の審議を行う。月に１度では企画提案は難しいと考える。
委員長：１ヶ月に１回の運営委員会では企画提案することは難しい。これまでは実施の 2 ヶ月前に企画を出すよう前倒しして、運営委員会で議論してきた。これからはもう少し時間的に先出ししてこの分科会で議論し、いくつかピックアップして活動計画へ反映させていくこととしたい。

3. 協　議　事　項

1. 平成 27 年度活動計画

事務局より平成 27 年度活動計画について説明があった。まちづくり円卓会議を軸にして「つなげる」をキーワードにして進めていく。「あつまる」ではおとぱに関連したゆめサロンで女性向け地域活動参加講座などを準備している。「ささえる」では、出前相談会や講座を計画している。全体では「つなげる」を中心に活動計画を策定した。

委員長：これは素案か。
事務局：ゆめサロンの 5 月実施分について時間がないので既に準備活動をしている。
委員長：運営委員会でもスタートアップとして講座を企画するなどの取り組みを考えていきたい。委員も PR 活動などにも参画してください。

今回の運営委員会において任期満了のため退任する委員、企業の岸氏、教育関係 NPO 法人所属の小嶋氏、一般社団法人代表の豊永氏の 3 名からご挨拶の言葉をいただいた。

4. そ の 他

１．次回運営委員会日程について
日時：平成 27 年 4 月 21 日（火）19 時～21 時
会場：イングビル 3 階　第 1、2 会議室